

日交研シリーズ A-609

平成 25 年度自主研究プロジェクト

自動車の保有と利用に関わる多角的な統計解析の検討

刊行：2014 年 10 月

自動車保有・利用構造および燃費決定要因に関する研究
A Study on Car Ownership, Usage and Mileage for Sustainable Mobility System

主査：兵藤 哲朗（東京海洋大学教授）

Tetsuro HYODO

要 旨

道路の延長や舗装道路の増加などによる道路整備、自動車産業の成長による車両価格の低下に伴い、自動車の保有台数は急激に増加してきた。自動車の普及は、社会・経済活動の活性化を通じて人々に利便さや豊かさを提供してきた反面、自動車に起因する社会問題も数々指摘されている。自動車交通量を抑制するために、新たな道路建設の必要性や交通需要管理策を用いて対処している事例も見られるが、これらの施策を有効に機能させるためにも、自動車の保有構造と利用構造を把握することが求められる。近年、自動車の燃費目標基準の強化や、環境意識の高まり、メーカーの継続的な技術革新により、新車販売車燃費は年々向上している。その一方で、利用者が実際に運転するときの燃費（実燃費）が、販売燃費値と大きく乖離しているという指摘も多い。それは実燃費が運転環境や、自動車属性及び走行距離に大きく依存するためだと考えられる。そこで、以上の要因が実燃費への影響を把握する必要性が高まっている。

以上の背景を踏まえ、本研究では道路交通センサスと自動車燃料消費量調査のデータを用いて、次の3つの検討を行うことを目的とする。一つ目は自動車保有構造に着目して、自動車保有構造と地域のマクロ属性・世帯構成の関係を明らかにすることを目的とする。二つ目は自動車走行距離に着目して、確率的フロンティアモデルにより、地域特性と世帯特性の影響を考慮した世帯の自動車利用の効率性の診断を行う。三つ目は外部の運転環境と自動車属性が実燃費に与える影響を明らかにすることを目的としている。

キーワード：車の保有と利用、燃費

Keywords : Car Ownership & Usage, Mileage